

▶ 消防団員セーフティ・ファーストエイド研修を実施して ◀

長野県南佐久消防協会

1. 南佐久郡について

長野県南佐久郡は、長野県の東の玄関口、佐久地域の南を占め、2町4村、人口約2万人からなる自然豊かな地域です。雄大な八ヶ岳の麓、この地の特産品であるカラマツや冷涼な気候を生かした高原野菜の栽培が盛んで、国立天文台が設置されるほど、美しい星空の地域でもあります。

2. 南佐久消防協会について

南佐久消防協会は、佐久穂町、小海町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村の6町村の消防団からなっており、平成31年4月1日現在で1,099人の消防団員が所属しています（うち女性団員11名）。

当協会では、消防団員の研修として、毎年5月には新入団員・幹部への実技・学科訓練及び希望者への救急救命の訓練をはじめ、ポンプ操作・ラッパ吹奏大会、秋の先進地への視察等、様々な訓練・研修を実施し、地域の防災力向上に努めています。

3. 研修実施の経緯について

毎年5月に実施される訓練では、例年地元消防署でAEDの使用方法や心臓マッサージのやり方などの救急救命訓練を実施していました。平成29年11月に当協会内の川上村消防団において、消防団員セーフティ・ファーストエイド研修を実施したところ、参加した消防団員に大変好評であったことや近年の大規模・複雑化する災害における消防団員への期待の高まりもあり、南佐久消防協会でもぜひ実施してはどうかという声が上がリ、実施に至りました。

4. 研修の概要

令和元年5月12日（日）に、北相木村公民館「しゃくなげホール」にて、協会内の消防団員35名が受講しました。



災害現場の写真から危険予測をする団員

当日の講師は、厚生労働省DMAT事務局の小森健史先生、河寫讓先生、東京医科歯科大学医学部附属病院の加藤渚先生に務めていただきました。また、消防団員等公務災害補償等共済基金から米田順彦常務理事及び篠塚企画課長もお見えになりました。

研修では災害時のメンタルヘルスケアについての講義を受講したほか、任務中の団員の負傷への対応のために外科的応急処置の訓練を実施しました。



任務中に負傷した団員の手当の実演

メンタルヘルスケアでは、心理的応急処置(PFA)の基本である「傾聴」をロールプレイング形式で体験し、相手を落ち着かせるテクニックを学びました。

また、災害時には被災者の支援をする団員に強い精神的なストレスがかかり、無力感に襲われる場合があることから、できなかったことよりもできたことを確認し合うことが大切だということを教えていただきました。

続く外科的応急処置の訓練では、災害現場や訓練で起こり得る事故を実際の写真を見ながら予測する訓練と、負傷者の救出中に団員が負傷した場合の対応をシミュレーションした訓練を行いました。



メンタルヘルスケア講義

5. 研修を終えて

今回の訓練で特に重要であると感じたのは次の2点です。

1点目は、支援者となる団員へのケアです。災害時には被災者への支援に目が行きがちですが、団員もまた被災者であって、なおかつ悲惨な現場へ赴いています。団員の精神的ダメージへの配慮も欠くことができないと強く感じました。

2点目は、外科的応急処置の重要性です。ほ



圧迫止血の練習をする団員

とんどの団員は初めてエマージェンシー・バンテージを使用した止血を行いました。「扱いやすい」「簡単に圧迫できる」という声が多く、想像よりも容易に行えることが分かりました。また、任務中の団員の負傷という状況を想定することで、本来の任務とは何か、今すべきことは何かという判断力を養うことにも繋がりました。

講師の方の実体験を交えた説明は、リアリティがあるとともに、理解しやすく、身になることが多かったです。

このように、多くのことを学べる研修となり、参加した団員にも大好評でした。今後は参加した団員から、各団の団員へ普及していくとともに、また機会がありましたら、是非開催したいと思っております。

最後に、研修会の開催に当たり、消防基金をはじめ、講師の先生方、佐久広域連合消防本部北部消防署・南部消防署等、多くの方々の御協力をいただきましたことを、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。



参加者集合写真

【止血の方法】

当研修会では、血液曝露による公務災害防止の観点から止血法の訓練を取り入れています。

これらの止血法の詳細については、当基金のS-FA指導員である小井土雄一氏、小森健史氏及び河寫讓氏も執筆者となっている『やさしく学ぶ応急手当 止血の方法』（株式会社ぱーそん書房）にて紹介されています。



【問い合わせ先】 株式会社ぱーそん書房

TEL：03-5283-7009